



《龍馬ファンへの道 及び 金沢龍馬会の活動の歴史》

“金沢龍馬会第一回総会” ④



金沢龍馬会
副会長 山田友一

県内での最初の総会は平成15年12月6日午後1時30分から広坂にあった石川県NPO活動支援センター(旧県庁舎2号館2階会議室)で行いその時は参加人数9名(会員数24名)という誠に心細いものでした。

総会は、会長挨拶に続き各会員の自己紹介や龍馬ファンになった理由等を発表した後、会則や今後の運営等が議論されました。



《第一回総会》

が好きだ、という情熱を大切に活動していきましょう。」と言われたことがとても印象に残っております。

総会後は野町の飲食店に移動し懇親会が開かれ、素面ではいえない龍馬さんへの思いを多く聞くことができました。

“金沢龍馬会の活動会” ⑤

金沢龍馬会の活動は、当初は会則の起案、会費の納入方法等会の運営方法が主だったのです。

ですが回を追うことに会員による研究の発表や石川県立歴史博物館徳田元館長から「竜馬の船中八策と加賀藩」と題して講義をしていただいたり、富山龍馬会主催の岩崎先生の講演会に参加させていただいたりしました。

又、越前龍馬会とは年末の交流会や平成16年4月にオープンした福井市立郷土歴史博物館オープニング交流会、そして平成20年10月に第20回全国龍馬ファンの集い福井大会に参加させていただいたり大変充実したものになっていきました。

私自身、全国龍馬ファンの集いに参加したのは、仕事の関係で平成16年の京都大会と上記福井大会だけですが、会員の多くは毎年の全国大会に参加し

て親睦を深めております。

この福井でのファンの集い懇親会の席上、私と当時の武内会長とで全国龍馬社中の橋本会長にご挨拶にいった際、会長から「金沢龍馬会として社会に何ができるかを考えて活動していますか。」と問われ、これまで「龍馬好き」「異業種の皆さんと龍馬を通して語り合える」との思いで参加していた私にとっては、脳天をトンカチで殴られたような衝撃で、絶句したのを覚えています。



《第16回全国龍馬ファンの集い(京都大会)》

“金沢龍馬会の現在” ⑥

発足当初から参加しているのは数名となってしまったことを非常に残念だと思っております。

会長は武内会長が高知へ帰藩し、武内氏から中川氏へそして現在の蛭子会長となり、事務局長の福野事務局長は健康上の理由から脱藩され、現在の吉田事務局長に引き継がれました。

蛭子会長や吉田事務局長を先頭に新会員も年々増え会員の交流、意見発表や各龍馬会との交流も盛んに行われ今後の活動に期待したいと思っております。

最後に、「金沢龍馬会として社会のために何ができるか」を公正な立場で追究して実行したいと考えておりますので、会員の皆様には是非ともお力をお貸しいただければと思っております。

まるわかり「龍馬と志士たち」 ⑨

志士たちが活躍した長崎とは ～大隈重信～

現代人は大隈重信と云えば早稲田大学を思い出す。大隈講堂の前に堂々たる像がある。しかし幼少期は佐賀藩(鍋島藩)出身の秀才であり、藩主の命により若くして長崎に来て致遠館を設立した。長崎の繁華街や出島に近い五島町に致遠館跡があり、今は佐賀の有名醤油会社が経営する駐車場である。

その隅に記念の石碑がある。佐賀藩経営の英語学校であり、ここがいわゆる早稲田の前身と呼ばれる学校である。正式運営期間はわずか2年間だったが多くの学生が学んだ。

長崎には直属の武士がいない。お奉行様以下大幹部は江戸からやってくる。陸上警備は大村藩が担う（元々長崎は大村藩領）。海上警備は隔年で福岡藩（黒田藩）と佐賀藩が担当する。

しかも佐賀藩は長崎周囲と長崎湾内の島に多くの自藩飛び地を抱えている。

文化5年（1808年）オランダの国旗を掲げたイギリス船フェートン号がやってきて、燃料や食料を要求した。お奉行様である松平図書守はそれを追い払おうと当番藩であった佐賀藩に集合をかけたが、平和ボケをしており湾内佐賀藩守備兵はさぼっており十分な兵力がいなかった。

フェートン号に平和裏に帰ってもらうため要求されたものを供給した。お奉行様はそれを恥じて自刃してしまった。幕府は怒り佐賀藩を処罰した。

爾来、佐賀藩は心を入れ替え、藩内を改革し、西洋式科学技術に取り組んだ。長崎周辺の自藩飛び地や島にお台場を建設し大砲を構えた。

湾内の島、つまり海面すれすれ、陸上の山の中腹、さらに高所、それぞれに大砲を準備し、いわば立体的台場としたので列強軍艦は長崎を標的に砲撃できないと判断せざるを得なくなった。

父親は佐賀藩の砲撃方で長崎周辺の勤務が多く、重信は小さな時から長崎になじんでいた。19歳で蘭学を学び始め、24歳で教官となった。

慶応元年（1865年）私学の形でフルベッキというオランダ人宣教師から英語を習った。慶応3年（1867年）佐賀藩主の命でフルベッキを校長として英語学校「致遠館」を設立した。

一応佐賀藩の学校だが他藩の秀才も学んだ。重信は英語教師をしながら西洋の政治・法律・財政を学んだ。この間、致遠館で副島種臣や江藤新平等、維新以降中央で活躍する佐賀藩出身者と協力関係にあった。

同時期、加賀藩は優秀な子弟を長崎に遊学させたが高峰譲吉も致遠館で英語を学んだといわれている。

有名な写真が残っている。フルベッキ先生と生徒の集合写真である。「フルベッキ群像写真」と呼ばれ幕末に長崎致遠館で学んだ人材が写っているものである。ところがいつの間にか生徒の名前が拡大解釈され架空の人名が記されている。

龍馬・高杉晋作はまだしも、長崎に来たことのない西郷隆盛や、極端な例では明治天皇の名前までが生徒として名を連ねるほど捏造された。

その位、フルベッキ先生の教えは若者に影響を与えたのである。彼は後に東京へ呼ばれ継続して教育に当たっている。

その後、本職の宣教師の比率が高くなったらしい。

さて佐賀藩は思想的に保守的であり、重信は攘夷

者から襲われたり、藩重役とぶつかることが多く、土佐藩の後藤象二郎の斡旋で脱藩した。

そして維新後は新政府の長崎で参与兼外国事務局判事として勤務した。居留地や隠れキリシタンをめぐる外国人との交渉で才覚を表した。

それが中央政府に評価され、東京へ召され参議となった。台湾出兵問題や財政など大久保利通を補佐し任務にあたったが、利通は明治11年元加賀藩士等によって暗殺された。実権は伊藤博文へ移った。

重信は明治14年の政変で下野した。翌年仲間と共に立憲改進黨を結成し、党首となり、10年後の国会開設に備えた。同年、東京専門学校（現早稲田大学）を開設した。明治21年外相に就任し政府に復帰、翌年爆弾により襲撃され、右足を切断した。

明治31年憲政党を結成し初の政党内閣となり首相兼外相に就任した。その後一旦政界を引退したが大正3年2度目に首相となった。そして大正11年満84歳で逝去した。

彼も他の何人かの幕末の志士と同様、語学をテコにして出世した。

参考資料：長崎新聞



Wikipedia より 後ろは大型駐車場（「じゃらん」より）

「続く」（記：吉田信夫）

【編集後記】

皆さま、今年は「新型コロナウイルス」発生の為今年1月23日の新年会以来お逢いしていません。

心の中に常に“龍馬の志し”を持ち張り切ってまいりましょう。会報も第28号が完成、漸く皆さまにお届けすることが出来ました。

***** 事務局*****

金沢龍馬会

会 長：蛭子政喜

事務局長：吉田信夫

080-5600-1113

jitianxinfu@hotmail.com

会報担当：中田俊郎 090-7806-2269

n-toshio@muji.biglobe.ne.jp

金沢龍馬会 公式ホームページ

<http://kanazawa-ryomakai.com/>

金沢龍馬会 facebook

<https://www.facebook.com/kanazawa.ryomakai?sk=wall&filter=2>



越前龍馬会設立20周年記念式典 兼北陸三県龍馬会交流会

早春の候、北陸三県龍馬会の皆様におかれましては、ますますご健勝の事と存じます。

さて、昨年、新型コロナの影響により開催を延期しておりました越前龍馬会設立20周年記念事業を本年5月22日（土）に下記の通り、開催しました。36名が参集しました。

ただし、まだ新型コロナ感染の恐れがある為、懇親会は無く記念式典のみ開催する事としました。

今回の開催地は福井県の越前市です。

この地は、福井出身の海援隊士の一人である「関義臣の生誕地」であり、昨年、越前龍馬会で、関義臣の解説板を設置しましたのでその解説板を紹介致しました。

また、記念式典では、関義臣の研究の第一人者であります「真柄甚松 先生」に関義臣に関する講演会をしました。

日 時 2021年5月22日（土）

受付開始 13:30スタート

式 開始 14:00

式 終了 16:00

場所：ホテルクラウンヒルズ武生
（JR武生駅前）3F 吉祥の間

越前市府中 1-2-3

TEL 0778-23-8100

講演会：演題「龍馬の黒子 関 義臣」

講 師：真柄 甚松氏

（越前市史編纂委員長）

参加費：無料

